

沖縄県立

博物館だより

2001.3
No.45

■企画展「沖縄の繊維・染料植物展」

平成13年2月6日から3月4日まで企画展示室において開催された企画展「沖縄の繊維・染料植物展」は、沖縄の伝統工芸の一つである喜如嘉の芭蕉布や読谷山花織、八重山上布、宮古上布など沖縄の伝統的な染織で繊維や染料として利用される植物素材を一堂に収集・展示した企画展です。

こうした植物素材の中で、繊維植物としては伝統的な苧麻（カラムシ）やイトバショウ、ワタなどが使われるほか、ケナフやローゼル、ストレリ



チアなどの園芸植物も新たな繊維素材として注目されています。また、染料植物でも、伝統的なリュウキュウアイやフクギ、シャリンバイ、ソメモノイモなどがありますが、最近ではゲッキツやマンゴー、ソウシジュなど新たに利用される染料植物もあります。

今回の展覧会では、こうした県内各地で利用される繊維・染料植物の鉢植えや植物標本、利用される部位としての根茎や樹皮、枝葉などについての実物資料（素材）を収集・展示するとともに、その素材を生かした色合いの豊かな布や糸の見本、そして、古人の知恵が生かされた沖縄の染織を紹介しました。

展覧会を通して、これらの植物を有用な資源植物として再認識する機会や伝統的な織物についての理解を深める機会になればと考え、本企画展を開催しました。また、こうした伝統工芸を支える素材が、いかに自然素材に依存しているかを理解し、それを生み出す自然環境とその保護についても考え合わせる事が、少しでもできたのではと思っています。

企画展 工芸王国一人技心一展



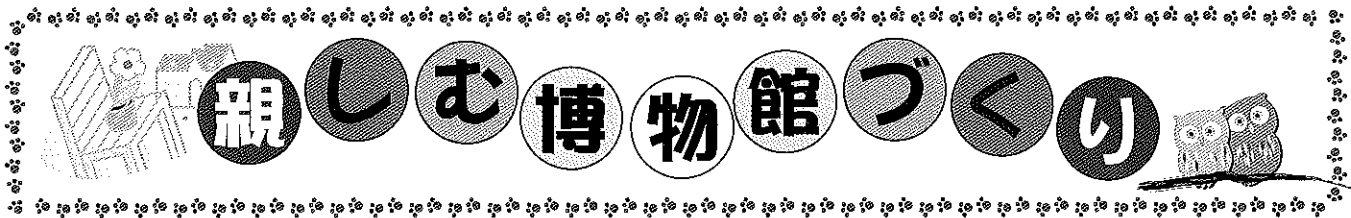
花倉織 (多和田淑子作)

平成13年3月13日(火)～3月25日(日)まで沖縄県無形文化財保存伝承事業企画展「工芸王国一人・技・心一展」が開催されます。

沖縄には、15件の工芸技術関係の国・県の無形文化財の指定物件があり、全国でも有数の質の高さを誇っています。

しかしながら、無形文化財を取り巻く社会状況は年々厳しさを増しています。沖縄県では、毎年伝承者の育成を目的とした、伝承者養成事業を行っています。今企画展は、その養成事業の成果と県指定無形文化財(工芸技術)保持者の作品を展示しております。

この企画展では、多くの方に無形文化財(工芸技術)としての工芸技術の価値を再確認し、沖縄の無形文化財の保存伝承、発展を考える契機とすることを目的としています。



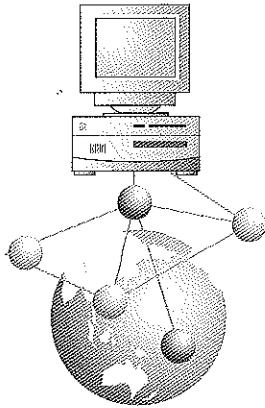
文部省委嘱の親しむ博物館づくり事業は、仲原遺跡で古代の暮らしを追体験しよう、をテーマに2期にわけて各4回ずつ実施されました。1回目は与那城町と勝連町の小学校5・6年生、2回目は沖縄県立埋蔵文化財センターの協力で、児童館・児童センター・子供会の児童を対象に合わせて延べ569人が参加しました。内容は縄文土器づくり、魚貝類の採集、火起こし、自作の土器を使用した煮炊き、竪穴式住居の組み立て・撤収、星座観察、竪穴式住居での寝泊まり体験でした。

こどもたちは「古代の人々は、こんな大変な生活を毎日しているかということ、この体験で良くわかりました。友達もできてよかったです」と貴重な体験に満足した様子でした。



▲火起こしがんばるぞ!

■博物館ホームページ2000名突破！



平成12年7月に行われたサミット開催記念「大琉球展」に合わせてインターネットを導入し、ホームページを立ち上げました。当初まばらであったアクセスも、新しい年を迎えてから急速にふえ、アクセス者が平成13年2月26日に2000名を突破しました。

この原因としては、当館のホームページとリンクしてくれるホームページが増えてきたことが考えられます。アクセスする人がもっと増えるためには、ヤフーなどの検索サイトで、「沖縄県立博物館」というキーワードを入れると、当館のホームページが出てくるよう早く登録が行われることが必要です。皆さんも、時々見て下さいね。

<http://w1.nirai.ne.jp/oki-muse/>

■新収蔵品紹介

この着物は、南風原町で、戦前から緋を織り続けている大城廣四郎氏の作品で、平成11年の叙勲を記念して当館へ寄贈されたものである。作品からは、織りの確かさと緋の高い技術がうかがえる。



◀ 絹緑地総緋



▲ 記者会見の様子

この書幅は、冊封使 徐葆光（生没年不詳／尚敬王の冊封副使として来琉）が揮毫したものである。東京都在住の西林昭一氏（書学書道史学会理事長）より「徐葆光ゆかりの地で活用して欲しい」と渡久地政二氏（書家）の仲立ちで寄贈された。

□平成13年度 国立博物館・美術館巡回展「かざりとかたち展」

この巡回展は、国立博物館・美術館の所蔵作品を活用し、展覧会や講演会等を実施することにより、地域文化の振興に資することを目的として、平成6年度から、文化庁・国立博物館・美術館及び各都道府県の開催館の共催で実施されているものである。

平成13年度は「かざりとかたち」をテーマに、下記の日程で鹿児島県立歴史資料センター黎明館と当館で開催される。出品数は約108件（国宝や重文を含む）の予定。

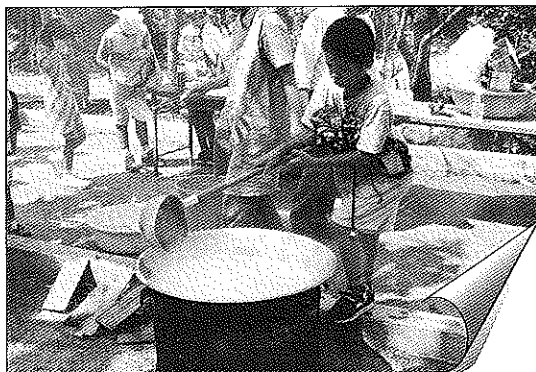
■開催期間：平成13年11月13日（火）～12月9日（日）

平成13年度の行事予定

■ 博物館体験学習教室

～漆喰シーサーづくりと沖縄の食文化を学ぼう～
子供たちを中心に、広く一般も対象とした講座です。

- 豆を栽培して豆腐をつくろう
4月28日、5月26日、7月28日、8月4日
- サトウキビを栽培して黒砂糖をつくろう
4月28日、5月26日、10月27日、12月8日
- 漆喰シーサーをつくろう
8月11日・12日、10月13・14日
- ウチナーそばをつくろう
11月18日、11月24日



▲豆腐づくりの様子



ボランティア活動

活動は展示解説、体験教室補助、通訳、資料整理などを中心にやっています。

このような活動のできるかたを、今年も6月中旬に一般より募集する予定です。ボランティアをとおし自己啓発もめざします。

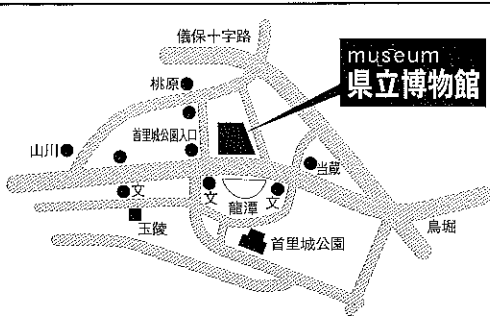
◀「新年ブクブク茶会」

博物館 シアター

- 映像で考える戦争と子供たち
6月10日
■戦争一子どもたちの遺言一
■戦場ぬ童一いくさばぬわらび一
- アニメを楽しむ
7月29日、8月5日、8月12日
■ニルスの不思議な旅
■ジャングル大帝
■アニメ三銃士
- 世界の人と馬の文化
2月24日
■アンダルシアに生きる一馬と祭り一
■大草原のまつり ナーダム
■バリオの祝祭
一古都シェナに生きる馬の伝統一

博物館文化講座

- 5月20日 第311回 世界遺産を支えた人々-戦後文化財保護の裏面史-
宜保榮治郎 (沖縄大学教授)
- 6月17日 第312回 資料収集こぼれ話
宮城篤正 (前浦添市美術館館長)
- 7月27日 第313回 首里の地名を語る
久手堅憲夫 (南島地名研究センター幹事)
- 8月18日 第314回 海の生物の観察
屋比久壮実 (フリーカメラマン)
- 8月26日 第315回 心から好きな糸の話
宮平初子 (重要無形文化財「首里の織物」保持者)
- 9月29日 第316回 沖縄の地形
前門晃 (琉球大学教授)
- 10月20日 第317回 イノチの利用と漁具・漁法
上田不二夫 (沖縄大学教授)
- 1月19日 第318回 琉球庭園の歴史
古塚達朗 (那覇市教育委員会生涯学習部文化財課主幹兼文化財係長)
- 2月23日 第319回 東アジアからみたグスク時代
池田榮史 (琉球大学教授)
- 3月16日 第320回 中部の遺跡めぐり
大城慧 (県立博物館 学芸課長)



那覇空港発

- 125番 (知花線)「桃原」バス停下車、徒歩10分
- 13番 (石嶺空港線)「当蔵」バス停下車、徒歩3分

市内バス

- 1番 (首里識名線)・12番 (末吉線)・14番 (泊線)・17番 (石嶺開南線)の「首里城公園入口」、または「当蔵」バス停下車、徒歩10分
- 9番 (小禄石嶺線)の「桃原」バス停下車、徒歩10分

市外バス

- 97番 (琉大線)「桃原」バス停下車、徒歩10分
- 46番 (糸満西崎線)の「首里城公園入口」、または「当蔵」バス停下車、徒歩3分

沖縄県立博物館だより

No.45

発行年月日：平成13年3月
編集・発行：沖縄県立博物館
住所：〒903-0823
那覇市首里大中町1-1

TEL (098) 884-2243
FAX (098) 886-4353